

## 「今後の県立高校に関する意見交換会（第2回）」記録要旨【岩手中部ブロック】

平成27年11月9日（月）

花巻市文化会館 中ホール

### 【花巻市 参加者】

- ・ 生徒の減少に伴う影響（課題）として、同年代との切磋琢磨の機会が不足するとある。小規模校だから機会が不足するとは限らない。大規模校でも、学習や部活動になじめない生徒もいる。10月にオーストリアのベルンドルフ市の生徒や先生方が大迫高校を訪れた。大迫高校の生徒は、折り紙体験・茶道体験等、様々な企画を考え全校で歓迎した。小規模校だからということで、切磋琢磨できないというように決めつけないでほしい。
- ・ 資料No.6では、時間的距離が示されている。大迫については石鳥谷までバスで30分とあるが、これはバスターミナルからの時間であり、自宅からバスターミナルまで30から40分かかる地域もある。大迫から花巻市内の高校に通学することになると、通学に時間がかかり経済的な負担も大きい。バス路線も少なくなっていることから、通学がますます大変になる。小規模校である大迫高校の存続をお願いしたい。

### 【県教委】

- ・ 一般的に小規模校の課題として、生徒数が少ないことで友人関係が固定化する、関係がこじれた時に修復が難しくなるといったこと等が傾向として見られる。学校として、行事等様々な対外活動を通して生徒に体験を積ませるような工夫があれば、課題の解消につながるものと考えている。
- ・ 時間的距離については、大迫高校がある地点までを示したものであり、地域の状況を勘案して再編の検討をして参りたい。

### 【花巻市 参加者】

- ・ 今後のスケジュールについて、12月までに再編計画案を公表するということだが、これまでの意見等を踏まえた大まかな内容は決まっていないのか。

### 【県教委】

- ・ 資料No.7に示すように、岩手中部ブロックは緩やかに生徒数が減少していくと予測される。そのため前期5年間については学級減を中心とした再編を検討している。小規模校においては、通学の状況等を確認の上、その取扱いを検討することになる。ただし、生徒数が極端に減少した場合には、統合等も含めた検討も考えられる。
- ・ ブロック内の高校でも定員を大幅に下回っている学校もあり、コースや学科の見直し、学級減は検討しなければならない。専門学科の定員割れもあり、産業界のニーズや産業振興の方向性も考慮し、地域との連携について引き続き検討していきたい。

### 【花巻市 参加者】

- ・ 県教委では、小規模校を一概に再編統合しないと言っているが、楽観視していない。
- ・ 家庭に車がないところはない。しかし、家族全員が免許を持っているわけではない。もし、免許を持っている家族が病気等になれば、通学にも困ることになる。通学できないということで、大迫の子ども達が高校に通えないということは、絶対あってはならないと思っている。

（次頁に続く）

- ・ 大迫高校を守るために、町外から入学している生徒に対し花巻市からの支援等もいただきながら通学への補助を行っている。地域の学校を守るという観点から存続のための活動に取り組んでいる。大迫高校の存続をお願いしたい。

#### 【県教委】

- ・ 大迫高校存続のための生徒確保対策協議会の取組については、高校を通じて伺っているところ。1学級校についての課題はあるが、教育の機会の保障の観点から特例として存続させることも検討すると県教委として今回示している。ただし、生徒数があまりにも少なくなり、教育の質の保証が難しくなる場合には、存続の方向性は残しつつ統合等の基準を示し対応を検討していきたい。

#### 【西和賀町 参加者】

- ・ 資料No.4にある校舎制について、小規模校で生徒数があまりにも減った場合に導入するという事なのか。

#### 【県教委】

- ・ 校舎制について、本県では校舎間に本校、分校と上下関係がないような形態として、普通高校同士というより、小規模な専門高校と普通高校あるいは専門高校同士での導入を考えている。
- ・ 校舎制のメリットとして、例えば普通高校と専門高校で校舎制を導入した場合、普通科で就職を希望する生徒が専門学科の就職情報を活用することで選択の幅が広がることが考えられる。また、専門学科の生徒で進学を希望する生徒が、普通科の課外授業を受けることができるといった可能性もある。全県的に生徒が減少する中で、全ての学校が小規模化することへの対応として考えられるものであり、全ての地区で直ちに導入するという事ではない。

#### 【西和賀町 参加者】

- ・ 教員配置の基準を教えてください。西和賀町は魅力化基金をつくり、西和賀高校の生徒の交通費、課外授業等に補助金を出している。今後、生徒数が減少し配置される教員が減るようなことがあれば、町としてもそれなりに検討しなければならない。
- ・ 盛岡ブロックでも生徒数が減っていくことになるが、盛岡ブロックの学校数はそのまま、地方の高校だけが減らされることは理解しがたい。

#### 【県教委】

- ・ 小中学校は在籍生徒数を基準として教員定数が決まるが、高校は高校標準法に基づき募集定員を基準に教員定数が決められ、国からの予算措置がある。
- ・ 進路別、習熟度別のクラス編制や授業等、きめ細やかな指導を継続するために、1学級定員を40人とし国からの財政措置をこれまで通り受けながら、県としてはその枠の中で小規模校に重点的に配置する等の対応もしているところ。
- ・ 盛岡ブロックでも生徒が減少しており、学級数の調整あるいは高校の統廃合の対応も、今後検討していかなければならないと考えている。

#### 【北上市 参加者】

- ・ 北上市や花巻市には誘致企業が多数有り、地元の専門高校卒業生がそれを支えている。専門高校の定員が割れている状況はあるが、地元の生徒が地域の産業を支えていることを勘案し、生徒が減ることを防ぐ視点で再編をしていただきたい。
- ・ 中小企業は、人手不足の中で沿岸の復興関連の仕事に頑張っている。それを支える専門高校が減る

(次頁に続く)

ことになれば、岩手の復興・再生に逆効果になるのではないか。専門高校の存続は、岩手中部ブロックでは重要な問題である。

#### 【県教委】

- ・ 中学生へのアンケートにも見られるように、生徒の志向が普通科系の学科にシフトしている状況がある。高校が入学生を待っているだけでは生徒は集まらない。小中学校の段階からキャリア教育をとおして、地域を担う意識と専門高校に目を向けるような取組が必要であると考え。岩手県において、ものづくりを担う人材の育成は重要である。しかし、欠員が多くなっているのも事実であり、いかにして専門学科に子ども達の目を向けさせるかということも考えながら、専門学科の在り方について検討していきたい。

#### 【北上市 参加者】

- ・ 大学卒業生の約半数が正社員ではないため、年収も 300 万円を切っている状況にある。そのため、奨学金を返還できない人もいる。社会がこのような状況にあること、岩手県は復興途上にあること等を考えると、高校再編を進めることが良いことなのか真剣に考えていかないと大変なことになるのではないか。

#### 【県教委】

- ・ 奨学金については、岩手育英会では東日本大震災により被災した方を対象に、卒業後の年収により返還が免除される震災特例奨学金も設定しているところ。
- ・ 専門学科について、現在は企業からの求人が多い状況にある。しかし、この状況が高校を目指す中学生等に伝わっていないこともある。ものづくりネットワーク等による小中学生の企業見学、インターンシップ等の取組はあるが、今後さらに小中学校とも連携し専門高校への興味付けを図っていくことが必要であると考えている。

#### 【花巻市 参加者】

- ・ 少人数だから切磋琢磨できないことはない。
- ・ 人口減少は日本全体が直面している問題であり、生徒が減少するのは目に見えている。その中で、岩手県としてどのような人材を高校教育で育てていくかということが重要である。しかし、高校再編の考え方として、どう効率的に学校運営をするかということが先行しているように感じる。非合理的な面はあるが、個性を生かした地域の小さな学校を大事にしながら、どういう人材を育てるかという発想の転換が必要だと思っている。
- ・ 学歴を重要視するつもりはないが、岩手県は大学進学率が低い現状にある。極端なことを言えば、生徒と教員が 1 対 1 で学ぶことで、多彩な人材を輩出できる小規模校があれば魅力になるのではないか。
- ・ 人口減少に歯止めをかける発想として、全寮制の高校をつくり全国から生徒を集めるというのはどうか。子どもが来ればその保護者も一緒に来るのではないか。

#### 【県教委】

- ・ 岩手の高校教育の目的は、知・徳・体を備えた調和のとれた人間形成により、自立した社会人としての資質を有する生徒の育成を基本方針として、いわての復興・発展を支え、ふるさとを守る人材の育成にむけた望ましい環境の整備に取り組むことが再編の基本的考えである。
- ・ 高校の場合、各科目の専門教員を配置し、生徒の将来の選択肢を広げるための選択科目を設定することが生徒の進路実現のため必要なことと考えている。 (次頁に続く)

- ・ 全寮制の高校については、長野県の白馬高校がスポーツで全国募集をしている例もある。町が寮を整備し、指導者についても地域の人材を活用するといった取組も見られるが、全国から生徒を募集し寮を運営するとなると、なかなか難しいところがある。

**【県教委】**

- ・ 多くの方に出席いただき、高校再編に対する関心の高さを感じた。
- ・ 夢を語ることができればいいが現実も無視できない。限られた条件の中で、どういう学校づくりをしていけばいいか悩むところである。皆様からの意見を持ち帰り、再編計画の検討をして参りたい。